香川県衛生研究所報 Vol 5（1978）

病理組織検査に関するアンケート調査

竹本　正・好井信子

Ⅰ　はじめに

本県の死亡総数は昭和５０年には7.３１２人で，この内悪性新生物による死亡は1,4９２人，その内容は消化器系と生殖器系で６６０人[1]と約4,4.2％を占めている。今回は当研究所に依頼のあった病理組織検査について，病理診断で悪性と判定された者の内，臨床診断との比較およびその後の患者の健康状態ならびに経過を知る目的で，各依頼施設（病院，医院）にアンケート調査をしたのでその結果及び経過を報告する。

Ⅱ　調査方法

昭和５０年１月から５１年１２月までに提出された検査物について，病理で悪性と判定されたものを次の３項目について○×式で実施した

1　アンケート様式

1）手術をしたか，　しないか

2）他の病院に紹介したか，　しないか

3）現在患者の健康状態，　良(イ)不良(ロ)死亡(ハ)

2　この調査実施については各担当の主治医の絶大な協力を得たことに感謝している。たとえば[3]の項目の〝健康状態〟では当時は本県に在住していたがアンケート調査時点には住所が変更しているような患者に対しても遠く県外にまで照会して解答を得た例が３件あった。

Ⅲ　調査結果とその考察

表１　アンケート結果

	した						しない						
	消化器（胃）	生殖器（子宮）	乳腺	リンパ	その他	計	消化器（胃）	生殖器（子宮）	乳腺	リンパ	その他	計	不明
①手術をしましたか	80	45	11	13	3	152	7	11			3	21	3
②他の病院に紹介したか	9	41	2	2	2	56							

	良					不良					死亡					不明
	消	生	乳	リ	他	消	生	乳	リ	他	消	生	乳	リ	他	
③健康状態	60	36	10	1	5	1	13			1	28	6	2	12		
計	112					15					48					57

表２　アンケート依頼数

検査物	消化器	生殖器	乳腺	リンパ	皮下	耳鼻咽喉	その他	計
依頼数	106	109	17	16	6	5	8	267
回収数	97	99	13	15	0	0	8	232
回収率％	91.5	90.8	76.4	93.7	0	0	100	86.89

調査結果は表1.2に示すとおりである。

この調査は件数に於ても又経過観察も短いこともあって，調査による3）の健康状態と経過状況は比較的よい結果となっているが，本来ならばもう少し長期的な観察が必要であるものと考える。

1　消化器系（胃）

胃については97件中80件が手術を受け，現在良好に経過しているもの60件，不良が1件，死亡が28件となり75%が健康を保っている。これはいずれの疾患にも云えることであり，手術時の患者の病状が大きく関与している。即ち早期癌と進行癌の差によるものと考える。最近いわゆる早期胃癌の診断法が確立され，集団検診も普及してきたために早期に発見される症例が飛躍的に増加してきた。

悪性と判定されたならなるだけ早急に外科的処置を施すべきである。

2　生殖器系（子宮）

子宮については調査数99件に対し46件は転院，45件が手術を受け36件が現在良好である。不良13件，死亡6　件で手術を受けたものの内80%が健康である。年令別ではやはり40～60才が最も多く胃のそれよりも上下の幅が大きい。

3　乳　，リンパ

乳腺，リンパは共に少数ではあるが，乳腺は特に90%と予後が抜群である。もし悪性の疑いがあればためらわずに手術すべきである。リンパはあまり良いとは云えない。いずれにしても術後1～2年ではあるが良好に経過していることは誠によろこばしい現象である。検査物の種類では消化器主として（胃），生殖器主として（子宮）が全体の84.4%を占めておりこれら臓器の疾患が圧倒的に多いことが検査物の種類から考えられる。この事は今後の成人病対策においても参考にすべきではなかろうか。表3～5はこの調査期間中に扱った検査物を集計したものである。

表3　検査総数と悪性数および男女の比

	総検数	悪性数	男	女
50年	1,281	139	57 (41.00)	82 (58.99)
51年	1,287	132	45 (34.09)	87 (65.9)
計	2,568	271	102 (37.6)	169 (62.36)

表4　検　体　別　男　女　比

	消化器		生殖器		耳鼻咽喉		乳　腺		リンパ腺		皮　下		その他		計	男	女
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
50年	35	17		55	1	3		6	6	6	2	2	2	4	139	46	93
51年	39	15		54		1		11	1	5	1	1	2	2	132	43	89
計	74	32		109	1	4		17	7	11	3	3	4	6	271	89	182
合計	106		109		5		17		18		6		10				
%	39.1		40.2		1.84		6.27		6.64		2.12		3.69			32.4	67.1

表5　年代別悪性数

	件数				
	年代	男	女	男%	女%
50年	10代	0	1		0.71
	20	0	2		1.43
	30	3	6	2.15	4.31
	40	10	23	7.19	16.5
	50	8	28	5.75	20.1
	60	17	18	12.2	12.9
	70	8	13	5.75	9.35
	80	0	2		1.43
計		46	93		
合計	139				

	件数				
	年代	男	女	男%	女%
51年	10代	0	0		
	20	0	2		1.51
	30	2	8	1.15	6.06
	40	5	12	3.78	24.2
	50	10	32	7.57	10.6
	60	16	14	12.12	12.12
	70	8	16	6.06	3.78
	80	2	5	1.51	
計		43	89		
合計	132				

表6　臨床診断と病理診断の比

検査総数	2,568
病理診断による悪性数	271
依頼書による臨床診断数	219
臨床的に診断がわからない数	52
臨床診断に対する病理診断の比率(%)	80.8

Ⅳ　まとめ

香川県内の悪性新生物（消化器系（胃），生殖器系（子宮）による術後の経過を知るためにアンケート調査を行ったが，その成績を要約すれば次のとおりである。

1）消化器系（胃）では75%が，生殖器系（子宮）では80%が現在良好であることがわかった。

2）年代別悪性数は男女共に40～60代が最も多く，全体の71.4%を占めている。又件数による男女別数は男89件，女182件と女性が多いことを示している。

以上の結果から，働き盛りの年代では進行が早いと云われるが，早期に適切な処置を講ずれば対策はあることを物語っている。

終りに臨み本調査実施に対して多大のご協力を頂いた病院，医院の諸先生方に厚く感謝します。

文　献

1. 香川県衛生統計年報（S.50年度）58～61